

多項目自動血球分析装置 XE-210Qにおける IG masterの評価

土屋 直道 ,前川 芳明 ,松尾 収二 (天理よろづ相談所病院)

<はじめに>

当院では、多項目自動血球分析装置 XE-210Q(Sysmex社 ,
以下 XE) を昨年末より導入している。今回、骨髓球・後骨
髄球など未熟細胞の検出を目的とした IG master(IG%)
を新たに搭載したので、その評価を行った。

<対象および方法>

対象は2004年7月12日から7月17日までにXE-210Qにて
検査されたCBC検体で、白血球数が当院の目視再検基準に
該当しない3000~15000/ μ lであった2189件の中から、種
々のFlag出現のために目視再検が行われた753件を用いた。

目視鏡検による未熟細胞(骨髓球+後骨髄球)比率とIG
masterのIG%との相関図およびIG%毎の未熟細胞検出の
ROC曲線を作成した。

<結果および考察>

IG%はDiffチャンネルの未熟細胞出現エリア内に見られ
るドットの数に応じて0から0.1%単位で表示される。IG
%は目視再検の基準値に利用でき、IG present Flagとし
て表示される。

IG%を0.6%に設定すると、目視鏡検による未熟細胞1%
以上の捕捉能力は、感度79.6%、特異度79.4%であり、
目視再検の対象となる検体は218件(10%)であった。IG
%を0.9%に設定すると、感度63.9%、特異度91.3%であ
り、目視再検の対象検体は124件(5.7%)となった。

目視再検に該当せずIG%が0.5%以下であった229件につ
いて目視鏡検を追加したところ、未熟細胞を1%認めたも
のは2件のみであった。IG%が高くなるほど未熟細胞の捕
捉能力は向上したが、いずれにしても、IG%で未熟細胞を
完全に捕捉することは不可能であった。以上の結果から感
度は下がるものの、業務の負担を考慮しIG%を0.9%に設
定することとした。

<まとめ>

未熟細胞捕捉の感度・特異度および業務の負担を考慮し
た結果、IG%を0.9%に設定することが妥当と考えられた。

連絡先：0743-63-5611 内線 8523